

『時事直言』 No.1812 2026年6月17日 国会議員号

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[X(旧 twitter)] [t_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019)

[instagram] [t.masuda2026](https://www.instagram.com/t.masuda2026)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/



時事評論家 増田俊男

アメリカ・イラン覚書合意の真相と緊急警告

イラン戦争停戦延長における覚書(Memorandum of understanding)合意は最終的核協議再開の第一歩であって本合意ではない。

世界経済がホルムズ海峡封鎖にこれ以上耐えられなくなっている一方でイランは原油と天然ガス輸出禁止と資金凍結の制裁に耐えられなくなっている。

又 G7 に時を合わせての覚書合意は見栄張りランプの好むところだ。

本覚書は、今後 60 日アメリカとイランが戦争終結へ向けての核協議をする意思表示であり、いわば本交渉の為に足並みを揃えることである。

2月28日にアメリカとイスラエルがイラン空爆を行う前はホルムズ海峡は航行自由であったし、アメリカとイラン代表の核協議が行われていて、26日には双方代表が条件の隔たりが縮小してきたので次回の会合では合意の可能性があるとまで発表していて、合意が出来れば対イラン経済制裁は解かれることになっていた。

従って今回の覚書合意で、ホルムズ海峡の航行が自由になり、60日間の交渉が再開されることは何ら進展したことにはならず、2月28日以前に戻っただけである。

これからの核協議の前に対イラン制裁を解くのならランプはイランに譲歩したことになり、ランプの勝利宣言のような発言は、又いつもの TACO である。

ランプがアメリカとイスラエルにとって肝心のイランとの核協議が始まってもないのに対イラン制裁を解くのなら、イランが言う通りイランの勝利である。

限界にきたホルムズ海峡封鎖の弊害とランプの陳腐な虚栄心が生んだ譲歩である。

ホルムズ海峡封鎖解除で株価は高騰しているが、この先の「落とし穴」が決定している。

アメリカとイランの核合意は 100%あり得ないからである。

短期間のホルムズ海峡自由航行の間に出来る限り原油・天然ガスの備蓄をする国が比較有利になることを強く進言しておく。

世界で起きている戦争や変動する市場の真相は増田塾で勉強して下さい。

先行受付中！増田俊男の小冊子 Vol.159

『迫りくる日本の危機』

現在増田俊男の小冊子 Vol. 159 は先行受付中です。

内容は、*習近平、プーチン、金正恩の3人とランプの腹の内 *2027年朝鮮戦争、台湾有事同時発生 *「貧乏籤(くじ)」を引かされた高市早苗 *日本は急いで核装備をしないと東京が火の海になる *遠のく日本の理想などです。価格は、1冊 5,800円(送料別)。詳しいご案内、お申込みについてはマスタ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313、HP: <http://chokugen.com/>) まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスタ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313) までお知らせ下さい。